



## ■1.背景

・地方の自治体では少子高齢化が加速し、その一方で人口減少が起こり、今後の地域社会の維持が問題となっている。また地方都市では地域施設も点在配置し、それらの維持管理も利便性の悪さとともに深刻な問題である。

・人口は減っているにも拘らず、地域の人同士との関わりは薄くなっている。また子供の数は減り、学校の数も減り、生徒数の少ない学校では関わる人の人数が減り、人との関わり方や地域の人と関わる機会が少なくなっている。

・子供時代は自分の感性や人格などを確立する大切な時期であるにも拘らず、地方では幼少期に人と関わる機会が都会に比べると少ない。そのような大切な時期に様々な人と関わる機会があってほしい。

## ■2.目的

・地域施設が点在し拡散配置された地域社会においては、その役割として、子供同士だけではなく多世代の人との関わりを学ぶ機会を提供し、そのための空間をつくることが求められる。

・当計画は、幼稚園・小学校・中学校の一貫教育の学校と地域の人が利用する共有施設との複合施設を提案する。

・その交流の機会が、多感な時期で様々なことを吸収して成長する幼少期には必要である。また、学校という閉鎖的空間に地域との共有施設を併設することで、地域との繋がりを持たせ地域の活性化に繋げたい。

## ■3.敷地

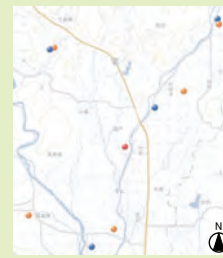
### ○鏡野町について

・鏡野町は岡山県北部に位置し鳥取県に接している自然豊かなまちである。

・面積419.68km<sup>2</sup>、人口は13,580人である。

・保育園も統合され学校の数は年々少なくなっている。しかし、まだ小学校や保育園は点在配置され、計画敷地は点在配置された教育施設の中央に位置する。

・計画敷地には現在、統合された中学校が建っている。



●中学校 ●小学校 ●幼稚園  
現在の教育施設の分布図

### ○計画敷地

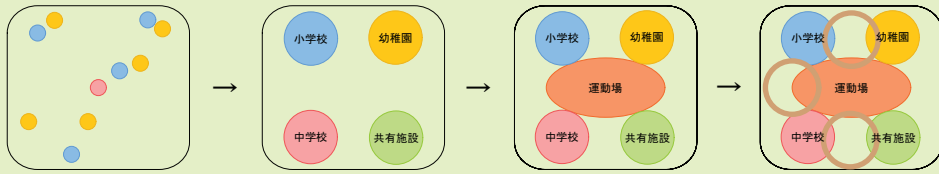
・鏡野町の中でも計画敷地は点在配置された教育施設の真ん中に位置し、周辺に役場、病院、スポーツセンター、プールなどがあり栄えている。

・東西に約8mの高低差があり、河に面した東側の地盤が低い。現在、建っている中学校の校舎は老朽化が進んでいる。計画では、中学校を含む敷地東側部分を4m盛土して計画する。



計画敷地

## 4.ダイアグラム



点在配置された教育施設たち。

地方に点在された施設を一つに集める。

運動場を共有部分とし、独立する4つの施設を繋げる。交流の場が生まれる。

さらに共有部分となる、デッキを設置する。デッキも交流の場となる。

## 5.計画概要

### ○エリア分け・共有施設の利用

- ・幼稚園・小学校・中学校・共有施設の4つのエリアに分け、高低差を考慮してそれぞれをデッキで繋げる。各デッキは、運動場や広場などを取り囲むように設置する。
- ・共有施設は図書館、体育館、広場、学童、会議やシニアスクールなどに使用できる多目的室などとする。地域の人や学校に通う生徒など自由に利用することができる。

### ○デッキの活用

- 1) 学校・中学校・共有施設を繋げる役割だけでなく、交流の場としての役割もある。外側の輪と内側の輪をずらすことにより、デッキの幅に変化を持たせ空間が生まれる。その空間も交流の場となる。
- 2) 独立する4つの施設はサブの円形デッキを中心にし、デッキを囲むように建物を配置する。デッキは全てグラウンドを囲うデッキと隣接している。サブのデッキは内部空間とし閉鎖的な空間とする。
- 3) 周辺にある大きな4つのデッキが、施設を繋ぎ合わせている。大きなデッキは外部空間であり、共有部分とすることで開放的空間とする。また敷地内だけでなく敷地外にも施設と繋がるデッキを設置することで、さらに地域との繋がりが生まれる。

### ○共有施設

- ・共有施設は地域の人がいっでも自由に使用できるものとし、地域の人など様々な人が自由に入出りでき、他世代の人との交流の場となる。
- ・各施設は円形デッキを中心にデッキを囲うように配置する。各施設は独立して配置し内部では繋がっておらず、各施設への移動はデッキを使用する。
- ・デッキは外部空間とする。各施設はデッキ側に入出口を設置し、利便性を高める。

### ○教育施設

- ・幼稚園・小学校・中学校の3つの教育施設は独立しており、グラウンド・体育館・図書館の3つの施設以外のホームルーム教室・特別教室などは、それぞれのエリアで完結するものとする。
  - ・グラウンド・体育館・図書館は共有施設とし、生徒たちはデッキを使用しそれぞれの施設へ向かう。通学方法は徒歩、自転車、バスとする。上履きは2階のデッキから各施設へ入る入口で履き替える。
  - ・給食はホームルーム教室で食べる。
- それぞれの学校に必要な教室構成は下図のとおりとする。

中学校	小学校	幼稚園
ホームルーム教室 9	ホームルーム教室 18	ホームルーム教室 9
職員室 1	職員室 1	職員室 1
理科室 1	理科室 1	職員室 1
美術室 1	図工室 1	保健室 1
技術室・木工室 1	家庭科室 1	トイレ 各階に1
調理室・献立室 1	音楽室 1	遊戯室 1
音楽室 1	PC室 1	多目的室 1
PC室 1	保健室 1	
保健室 1	トイレ 各階に1	
トイレ 各階に1		
体育館 1		

各学校の教室構成

### ○教室の配置と中庭

- ・教育施設は小さな円形デッキを中心にし、円に沿うように四角い建物を配置する。
- ・中心のデッキは内部空間とし教室を繋ぐ廊下となり、また、教室1つ1つが独立するような形で廊下に向いている。
- ・デッキの中の円は中庭とする。中庭は1階から自由に入出りできる。また、小学校と中学校の中庭には高低差があるため、階段を設置する。
- ・円形廊下の中庭に面した側は全面ガラス張りであり光を取り入れ、開放的空間とし、どこからでも中庭の様子を伺うことが出来る。そして外側には芝生を配置する。
- ・教室の開口部と廊下の開口部を開けることにより風のとおり道を作ることができる。



0 10 30 50 [m]

配置図 S=1/800



### ○ホームルーム教室

・幼稚園・小学校・中学校のホームルーム教室は同じ構成とする。

・教室は壁や扉を設置せず、教室と廊下の境目をなくして開放的空間とする。しかし、天井の色や床の色を変え、教室と廊下の境目に背の低い家具を設置することで、教室と廊下の区別をつける。

・廊下の反対側は壁一面の大きな窓とすることで、更に開放的空間となる。基本的には黒板を正面としたときに、左側が大きな開口部とし、右側が廊下とする。

### ○特別教室

・職員室もホームルーム教室と同じように壁と扉を設置せず、境目をなくし開放的空間とする。また、天井の色や床の色を変えることにより、教師と廊下の区別をつける。

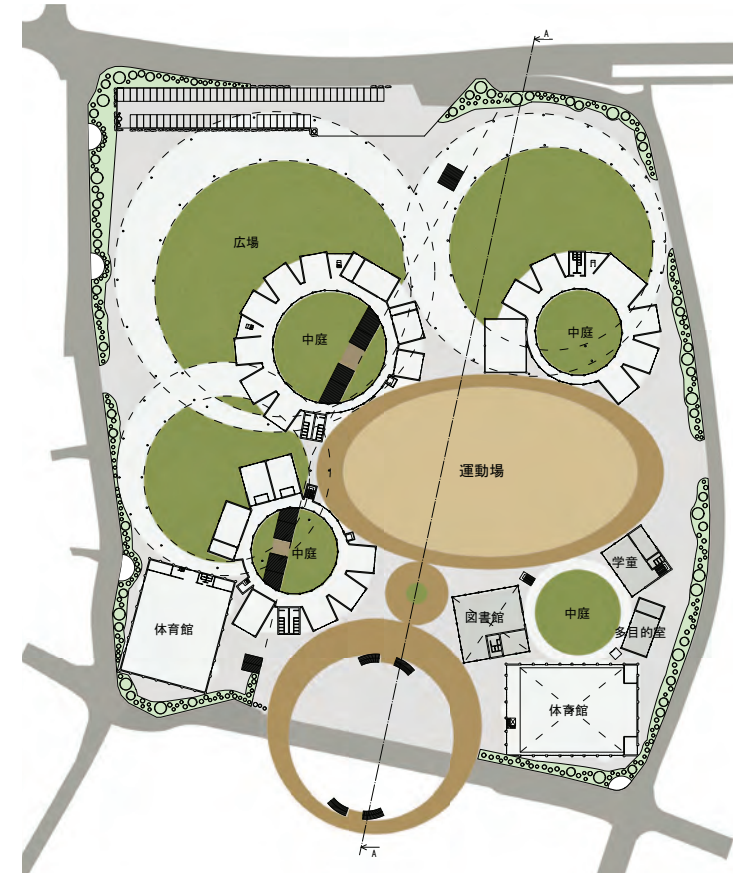
・特別教室は音楽室など騒音の問題もあるため、教室と廊下の境目に壁と扉を設置し閉鎖的空間とする。



ホームルーム教室の内観パース



1階平面図 S=1/1000



2階平面図 S=1/1000



A-A断面図 S=1/400





## ■6.幼稚園

### ○構成

- ・園舎は低い側に配置する。
- ・2階建てとする。
- ・教室は2年制×3クラスで計6クラスの予定であるが、3年制×3クラスで計9クラスへの変更も可能である。
- ・ホームルーム教室は全部で10教室あるため、生徒数が増えても対応できる。

・職員室は1階にあり、ホームルーム教室の中央に配置する。職員室の中に保健室を設置する。

・2階中央には様々な用途に使用できる多目的室を配置する。例えば先生の会議や、園児がお迎えを待つ時などに使用する。

・運動や発表会、季節の催しごとなどイベントを開催する時などは、遊戯室を使用する。

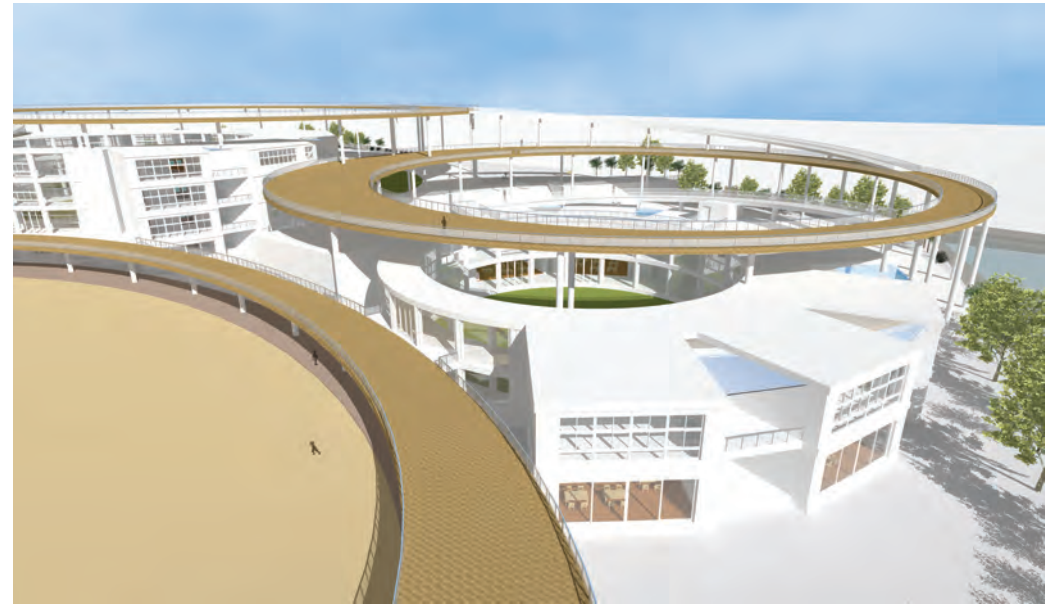
・校舎中央の中庭と外側の芝生を園庭として利用する。遊具は中庭に設置する。職員室から中庭の様子を確認できる。



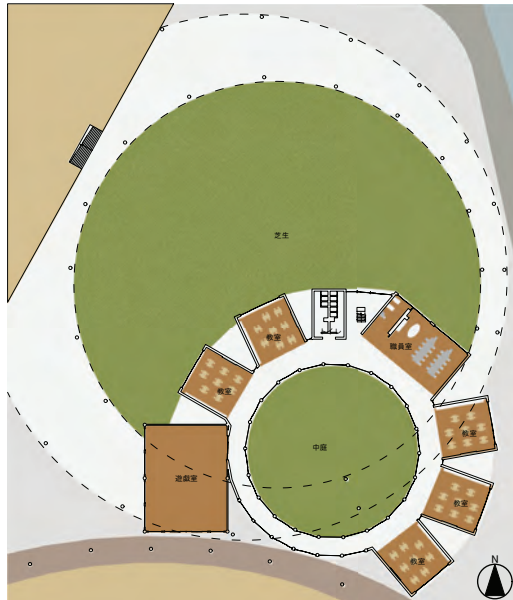
幼稚園北立面 S=1/500



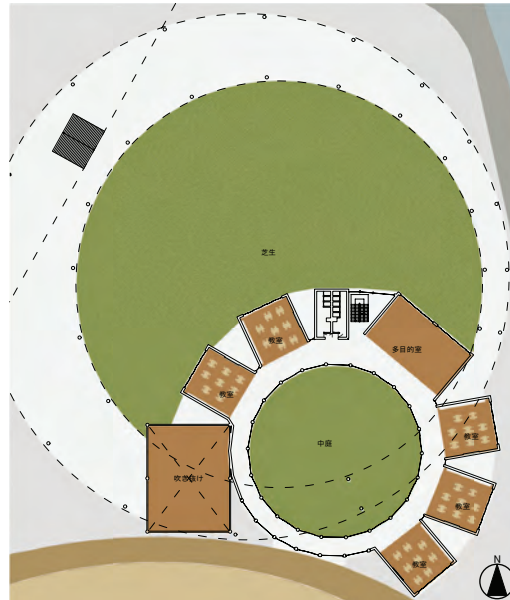
幼稚園東立面図 S=1/500



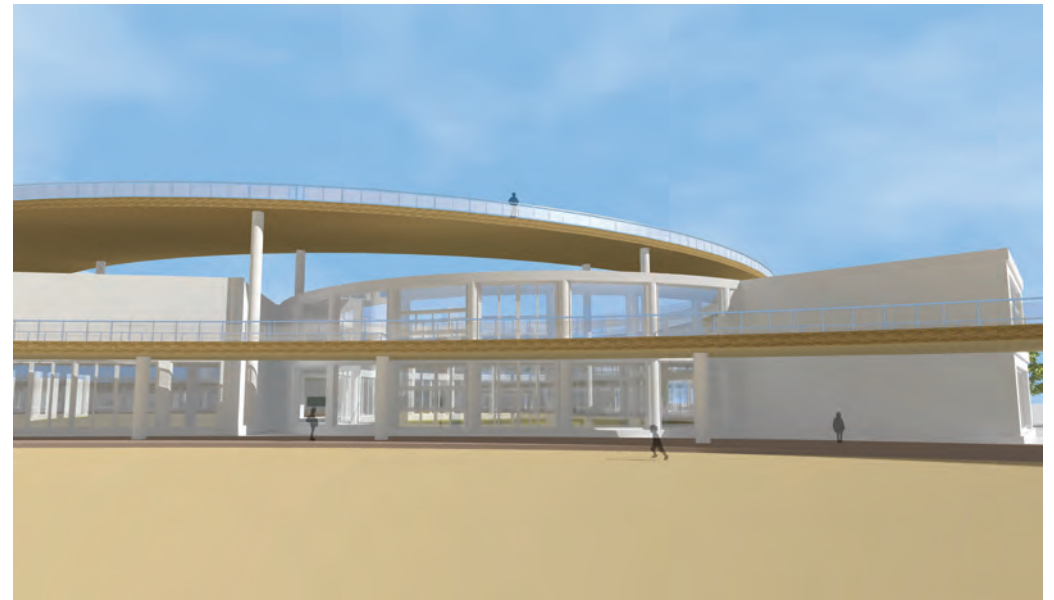
幼稚園外観パース1



幼稚園1階平面図 S=1/500



幼稚園2階平面図 S=1/500



幼稚園外観パース2

## 7.小学校

### ○構成

- ・円形の廊下を中心に教室を配置。
- ・小学校の校舎は地盤の高低差をまたぐように配置し、高低差の低い側では4階建て、高い側では3階建てになる。
- ・各学年3クラスで計18クラスとする。多目的室を設置することで、クラスが増えても対応できるようにする。
- ・体育館は中学校が共有施設にあるどちらかを使用する。中学校の体育館へは外の大きな円形の廊下を利用して向かう。共有施設の体育館へは運動場を囲うデッキを利用して向かう。

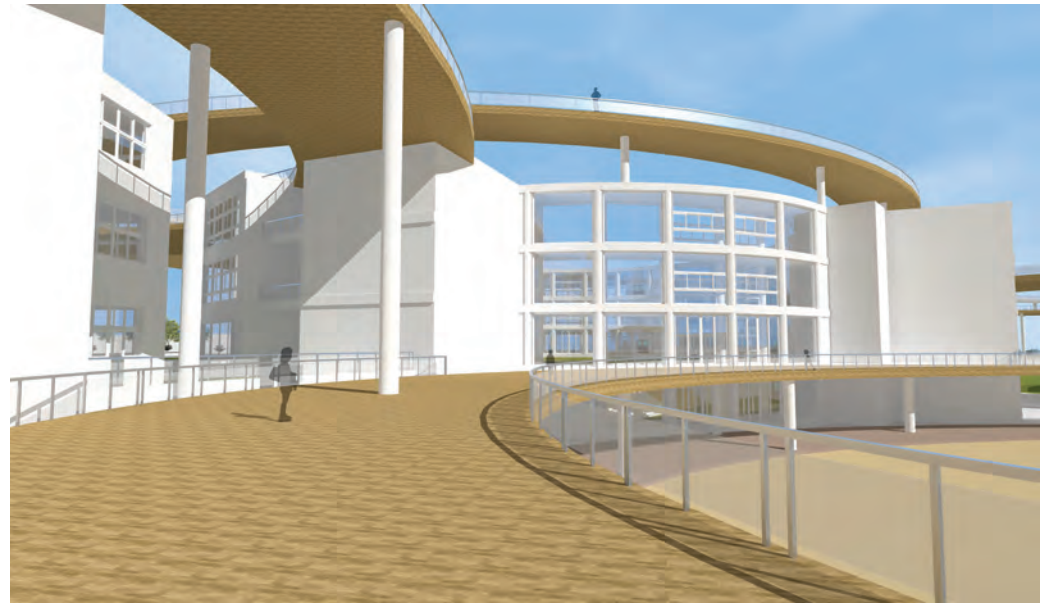
- ・ホームルーム教室は左側の高い側にまとめて配置する。各階に6教室ずつ配置する。
- ・特別教室などは右側にまとめて配置する。特別教室は各教科に1つずつとする。
- ・音楽室・職員室・理科室などは一番大きな教室を使用する。図工室・家庭科室・PC室などは中くらいの大きさの教室を使用し、その他の特別教室はホームルーム教室と同じ大きさの教室を使用する。
- ・職員室などを教室たちの中央に配置。その他の特別教室は比較的よく使用する教室を、ホームルーム教室に近い中央に配置する。



小学校南立面図 S=1/500



小学校東立面図 S=1/500



小学校外観パース



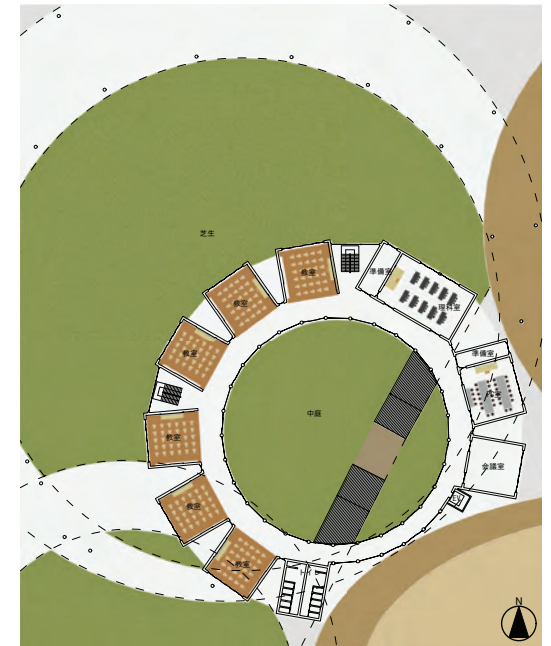
小学校1階平面図 S=1/500



小学校2階平面図 S=1/500



小学校3階平面図 S=1/500



小学校4階平面図 S=1/500



## ■8.中学校

### ○構成

- ・中学校の校舎は地盤の高低差をまたぐように配置する。高低差の低い側では4階建て、高い側では3階建てになる。
- ・各学年3クラスで計9クラスとする。
- ・体育館は中学校に設置する体育館と、共有施設の体育館も一緒に使用する。
- ・中学校に設置する体育館へは、外の廊下を利用して向かう。共有施設にある体育館へは、運動場を囲うデッキを利用して向かう。

- ・ホームルーム教室は低い側に配置し、高い側には特別教室を配置する。
- ・職員室などを教室たちの中央に配置。
- ・主に使用しない教室は多目的室とする。このような多目的教室は、教科によっては勉強の進捗度などによりクラスを2つに分ける時に使用でき、生徒数が増えても対応できるようにする。
- ・調理室・裁縫室と技術室・木工室は隣同士とし、理科室のみ2つ設置する。音楽室・職員室・美術室は大きな教室とする。



中学校南立面図 S=1/500



中学校東立面図 S=1/500



中学校外観パース



中学校1階平面図 S=1/500



中学校2階平面図 S=1/500



中学校3階平面図 S=1/500



中学校4階平面図 S=1/500

## ■9.共有施設

### ○体育館

- ・体育館は共有施設と中学校の2つのエリアに設置する。
- ・共有施設の体育館はバスケットボールコート2面分の大きさをとりステージを設置する。

- ・ステージは小学校・中学校の発表会などを行うことができる。ステージ横には機材などを置ける準備室を設置し、また部活動や学校外のクラブなどでも利用できるようにする。

### ○学童保育

- ・2階建てとし、小学校・幼稚園の生徒を預かり、地域の人達が面倒を見る。

- ・両親が共働きの家庭の子供たちは、放課後帰宅しても一人だが、学童を利用することにより一人で過ごす時間が減り、高齢者や親世代の人との交流が生まれる。中学生も利用することができ、地域の人と一緒に小学生・幼稚園生の面倒を見る。また、地域の人に勉強を見てもらえる。

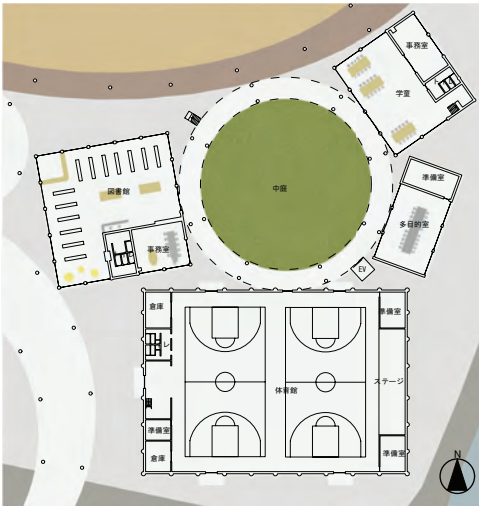
- ・学ぶ場と遊ぶ場など様々なスペースをすることで交流の場となる。様々な世代の人が集まることにより、他世代の人との関わり方を学ぶことができる。



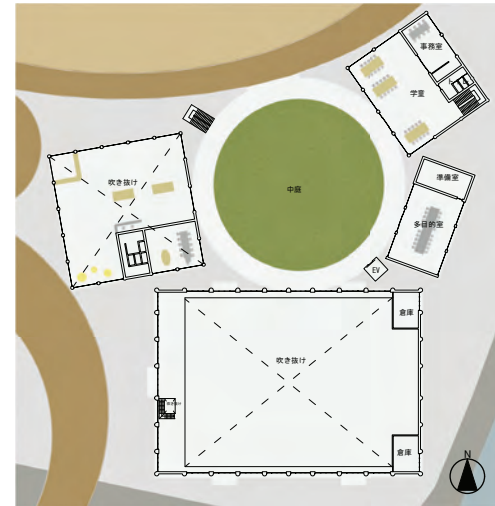
共有施設南立面図 S=1/500



共有施設東立面図 S=1/500



共有施設1階平面図 S=1/500



共有施設2階平面図 S=1/500

### ○図書館

- ・1階建てとし、内部空間は天井を高くすることにより開放的空間とする。また、大きな窓を設置することにより開放をさらに高めた空間とし、居心地の良く、長い時間過ごしたくなる空間を計画する。

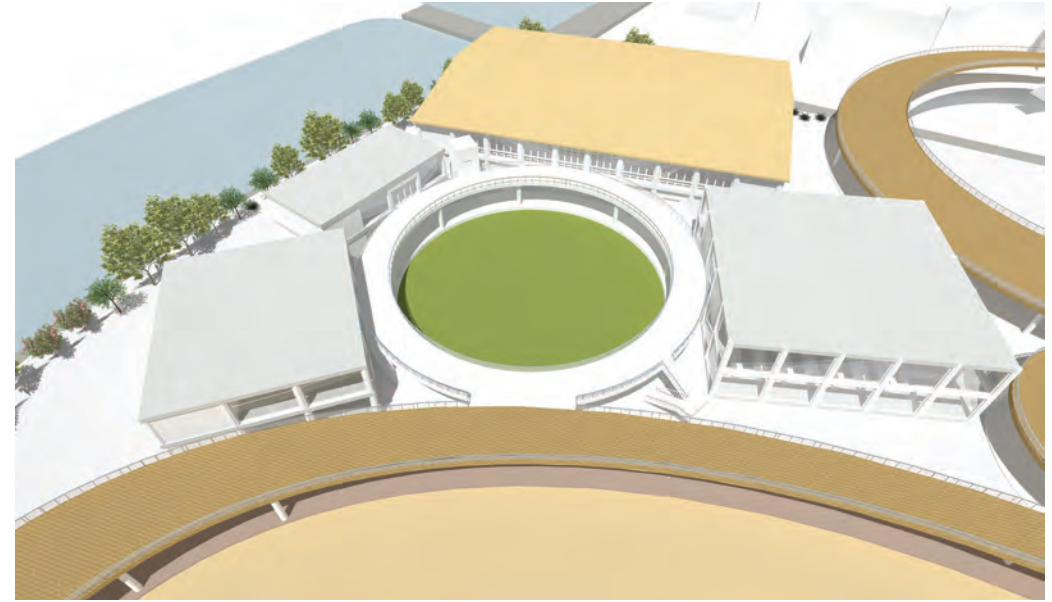
- ・児童用に靴を脱いであがるスペース、絵本の読み聞かせスペースや寝転んで本を読めるスペースなど様々なスペースを設置し、子供世代から親世代、高齢者世代まで様々な本を扱う。

### ○多目的室

- ・多目的室は2階建てとし、1階も2階もどちらも多目的室とする。

- ・内部空間はメインの広い部屋と横に小さな部屋で構成する。小さな部屋は給湯室や準備室の役割を持たせる。建物内に階段はないため外の階段を利用する。

- ・地域の人など誰でも自由に使用できる。シニアスクールや子供向けの図工教室、習い事、先生方が会議での使用など様々な使い方ができるようにする。



共有施設外観パース1



共有施設外観パース2